

第三百八十九回 青葉会

平成三十年九月二十七日(木) 午後六時〜九時 文京区民センター

〈選者〉

◎ 川口孤舟

〈出席者〉

今井紀久男 大林猛 柿崎忠彦 久米五郎太 在間千恵 豊田ゆたか 中野一灯

〈投句〉

伊賀山そらお 川口孤舟 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 古田昇 星田啓子

宮内規雄 山崎亜也 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

赤田堅 安部眞希子 川口孤舟 楠田彦十 小西弘子 庄司龍平 高橋敏郎

早川允章 福島正明 村田くに子 山本三恵

《互選句》

七点

◎ 少年に秘密ありけり通草(あけび)裂け 孤舟 (眞・紀・猛・彦・龍・正・三)

◎ 遠国(まんご)へ赴任する子と酌む良夜 盛雄 (紀・孤・弘・龍・灯・允・く)

(弘…親子のしみじみした思いの溢れた一句)

五点

◎ 螺子(ねじ)巻いて秒針を聞く秋の夜半 一灯 (眞・忠・孤・敏・三)

◎ 秋蝶がふはり追ひ越す老二人 啓子 (紀・猛・孤・千・敏)

(◎…文語(歴史的仮名遣い)と口語のどちらかでもよいと思うが混合はしないように)

芋煮会トツプニニュースの平和な日 天牛 (堅・猛・彦・千・龍)

◎ 満月や孤独は兔のみならず 健介 (堅・孤・彦・ゆ)

四点

◎ 秋彼岸二人でタイムスリツプす 全 (紀・忠・彦・五)

◎ 風落ちて海近き馬柵(ませ)霧しづく 一灯 (孤・五・ゆ・三)

◎ 花野ゆく亡き母の絵のこの辺り 昇 (紀・ゆ・灯・三)

◎ 秋晴れやダム放水の白き帯 そらお (孤・灯・く)

三点

(湘紅会ハイキングで宮ヶ瀬ダム)

◎ 幕間(まくあひ)に軽く一杯栗弁当 紀久男 (敏・灯・正)

◎ 秋麗初刷(はつずり)の本手に重し 五郎太 (紀・孤・く)

◎ きぬかつぎ天草の塩少し振り 全 (猛・孤・千)

◎ 秋雨や樹木希林逝きアムロ去る 全 (眞・彦・允)

◎ 秋彼岸経の唱和に帰路軽し 千恵 (堅・眞・敏)

◎ 朝寒や温泉(いでの)へ遠き宿の廊 恵洲 (眞・五・正)

(木曾の昼神温泉)

◎ 紅(くれなゐ)のいと濃き木曾路の赤とんぼ 全 (猛・忠・弘)

◎ 岩風呂にゆらぐ月光ふくらはぎ ゆたか (忠・孤・龍)

◎ 百七歳の笑顔は童女曼珠沙華 盛雄 (眞・孤・く)

(伊丹市の最高齢女性。市長より花束)

◎ 弔辞書く吾の手を留めし稲光 全 (紀・千・ゆ)

◎ 冷(すさまじき)闕病思ふ舞台かな 紀久男 (忠・正)

(福助、四年半ぶりの復帰)

◎ 爺婆へ似てなき顔絵敬老の日 忠彦 (千・龍)

◎ 江戸文字の法被の大門秋祭礼 全 (紀・弘)

◎ 地震(なると)台風明日は我が身と備へせり 全 (紀・龍)

◎ 流星を大海原の闇に撒く 孤舟 (敏・允)

◎ 台風去りなほ蠟燭の夕餉かな 堂哉 (忠・孤)

◎ 重陽や花弁浮かべ白ワイン 全 (弘・灯)

◎ コルク抜く音の湿りや秋徽雨(あきつり) 一灯 (紀・孤)

◎ 秋しぐれ薄暮の山路踏み急ぐ 全 (堅・弘)

飛行機雲が秋の空を食べている

啓子 (紀・忠)

(◎)：出来るだけ五・七・五の定型を守って欲しい)

銜香の煙一發鴉(もず) 青音(たかね)  
葛咲くや万葉人(まんえふひと) に思い馳す

蛸雄 (灯・允)  
全 (堅・ゆ)

藤の実や柔毛似合はず茨(さき) 堅し

亜也 (紀・三)

水澄むやシヨパンのピアノ聴きに行く

紀久男 (正)

新盆のお斎(とき) にへぎ蕎麦遺愛酒

全 (敏)

ジャズに乗り女将連中総踊

全 (正)

(浅草公会堂のお盆恒例「ニューオリンズ・オーケストラ」ファイナーレの踊り)

明月や雲を照らして見え隠れ

猛 (く)

繊細な蕊(し) 震はせる彼岸花

全 (千)

虫の声一山覆ひ涼を呼ぶ

全 (堅)

黒葡萄眠れぬ夜の吐息聞く

五郎太 (三)

太古への想ひ土偶に寄せる美術展

千恵 (紀)

(◎)：中七の字余りを避けたいので↓「想ひ土偶の」では如何)

秋彼岸父に無沙汰の灘注ぐ

堂哉 (允)

(◎)↓「秋彼岸無沙汰の父へ灘の酒」

親しみし老木の伐られ秋の風

ゆたか (弘)

蘇る火焰の器天高し(縄文土器展にて)

全 (五)

ポケットに角とれし賽渡り鳥

一灯 (紀)

◎ 長き夜に恋ふ父のこと母のこと

昇 (孤)

道すがら手折る人あり垣木権

亜也 (彦)

慈悲もなき天は怒るか野分後

けい子 (紀)

天突くか赤き拳(こぶし)の曼珠沙華

全 (五)

### ● 次回青葉会

十月二十五日(木) 午後一時半〜四時半 文京区民センター

▲ 当季雑詠各自五句 投句は二句

十一月二十二日(木) 全 全

十二月五日(水) 忘年句会 寄席見物↓句会(築地「紅蘭」)

以上 文責 紀久男

平成三十年九月 青葉会報



一、孤舟選者は主宰結社の五浦吟行で欠席。出席は極少の7名・投句12名。

千恵さん寄贈の純吟「蓬萊」(飛驒・高山)、小生の純吟「神の穂・義左衛門」(伊賀・青山)上の山温泉・古窯の焼菓子「縁菓」、五郎太さんからのカシユーナツツ(教え子のミヤンマー留学生より)、忠彦さんからいつもの軽食にカキフライ!等を賞味し乍ら開始。天牛さんの近況やウェブ句会のことなど話題にしつつ進行。御覧のように孤舟さん、盛雄さんが高得点でした。回覧は(一)眞希子さんの選句FAX(二)五郎太さんの翻訳新刊THOMAS・GRAHAM著「フィリピンNGOのソーシャル・ビジネス」―誰も置き去りにしない―(文教堂¥1,800 2018/9/10)(三)「中村草田男句集」―炎熱―(横澤放川編)(四)丹野敦雄さんの類句「八月や六日九日十五日騒動記」(五)大滝君の落語会チラシ(六)「古窯曼陀羅」(七)「おしゃべり談話室」夏号